

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

①FD体制の整備充実

《医療系》

●東京医科歯科大学医歯学総合研究科口腔機能再構築学系専攻

「大学院から医療現場への橋渡し研究者教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

医歯工連携教育に必要な、大学院生教育に関するFDプログラムを策定して、実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生教育に関するFDは、これまでにほとんど実施された例がなく、画期的な試みとなった。また薬事・許認可に関する講義を取り入れた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

大学院生教育に関するFDを実施した結果、どのようにすれば研究シーズが実用化に結び付くか、という観点からの教育を、今まで以上に積極的に取り入れるようになった。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

《医療系》

●東京医科歯科大学医歯学総合研究科口腔機能再構築学系専攻

「大学院から医療現場への橋渡し研究者教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

大学院生の教育プログラムの一環として、各自の研究について発表を行いディスカッションをする研究成果報告会を実施し、また医用器材・機器の開発研究の現状を国際的視野で認識させる学生海外派遣を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

研究成果報告会は、薬事・許認可に関する専門家や医療機器メーカーの担当者を招いて、実用化・製品化につながる研究を目指したディスカッションを行った。学生海外派遣は、なるべく多くの学生に、できるだけ早期に海外での発表の機会を持たせるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

研究成果報告会では、大学院の1、2年次という早期の段階で、専門家を交えてディスカッションができたことから、学生にとっては各自の研究の方向性の確認ができ、またプレゼンテーション技術が早期の段階で身についたと考えられる。学生海外派遣の参加者は、強い海外志向を持って帰国した。その言動が他の学生を刺激し、ほとんどのプログラム参加者が将来的な海外への留学等を意識して研究に取り組むようになり、今後世界をリードしていく研究者を育成できたと思われる。